

世界のリンゴ市場(要約のみ抜粋)

FreshPlaza 2025年6月20日

世界のリンゴ市場では、安定した需要、地域的な供給上の課題及び価格の変動が混在している。主要な生産国及び輸入国の全体的な状況は、天候の影響、消費者の嗜好の変化及び国際貿易のパターンによって形作られている。

イタリアでは、リンゴの在庫量が前年に比べて微減の25万トンとなり、中でもゴールデンデリシャスは25%減少した。販売が堅調である一方、生産者達は植物防疫上の規制強化の圧力に直面している。

ドイツでは、他のヨーロッパの国からの供給が減少したため、国産のリンゴが市場をリードし、また南半球からの輸入品が存在感を高めた。旺盛な需要と販路の選択肢の拡大に支えられ、価格は概ね安定していた。

ポーランドでは、開花期の降霜がその後の収穫量に影響を与え、コロナ禍以来最も急激な価格上昇を引き起こした。近代化の取組みが園地の拡大よりも効率化に重点を置いていること及び供給量が限られていることから、引き合いは依然として強い。

スペインではサイズが小さく、在庫量が少ない中で出荷シーズンが終了する。ジローナ地方の生産者達は次のシーズンにはゴールデン品種の収量が少なくなると予想している。

オランダのリンゴ市場では依然として価格が堅調であるが、減速の兆しを見せている。取引業者はほとんどの品種でバランスの取れた供給を報告しているが、一部の品種では品質上の懸念が浮上している。

フランスでは、暑い天候及び核果類との激しい競争により、リンゴの需要が鈍化している。ゴールデン系の品種が低迷している一方、クラブ品種とグラニースミスの販売はより安定している。

スイスでは、有機リンゴの在庫量が5月に931トン減少したものの、依然として高い水準にある。慣行栽培の品種の価格は様々であり、ガラは11%下落し、ジャズは5%上昇した。

北米では、ワシントン州のリンゴの供給はハニークリスピの在庫量が少ないことを除けば安定しているが、ペンシルベニア州は供給不足に直面している。価格は保たれるものと予想され、ハニークリスピ等の一部の品種では高値を維持し、他の品種も堅調と見られる。

中国では、贈答用化粧箱入りのクイーン(皇后苹果 NZ Queen)をはじめとして、需要の高まりにより価格が上昇している。高品質品の入荷が限られているため、クイーンとガラの両品種の価格が毎週上昇している。

インドでは、国内の生産不足により輸入品の需要が増加しており、レッドデリシャスが依然としてトップの選択肢である。チリ産のレッドデリシャスとガラは、その品質と競争力のある価格設定で特に人気が高い。

南アフリカのリンゴ輸出業者達は、アジア・アフリカ市場の変化に対応しようと取組んでおり、そこでは様々な需要パターンと物流上の制約が現在の貿易の流れを形成している。

南米のリンゴ生産者達は、横ばいの生産量、変化する需要及び生産コストの上昇が混在する状況に取り組んでいる。アルゼンチンとチリはコスト圧力の下で輸出の勢いを維持しており、ブラジルでは国内生産量の少なさと品質の高さが堅調な国内価格を支えているが、(アルゼンチンやチリからの)輸入を招く可能性もある。